

<p>○ペコロスのタネを植える 近藤さん</p>	<p>20:34</p>	<p>N リ。。。見るというのがやっぱり、行動したことが次に帰ってくるという。花を持って歩いてもらうのもいいですし、電車間にずっと花を持っていたらみんな見ますよね。そういうことの繰り返しなのかな？と思いつながら」</p> <p>N 知多半島の北西部、知多市。(ちたし)に新たに農業にチャレンジしている女性がいます聞き、尋ねてみました。</p>
<p>○ペコロス 近藤さんコーナーカット</p>	<p>20:46</p>	<p>N こちらの近藤由佳さんが作っているのは、ペコロス。</p>
<p>○近藤さんインタビュー</p>	<p>20:53</p>	<p>直径が3cmから4cmくらいの玉ねぎの仲間です。大正時代に外国船の船員さんがそのタネを持ってきて、ここに栽培の技術を根付かせていったという風に聞いています。」</p>
<p>○ペコロス商品カット</p>	<p>21:08</p>	<p>N タネを蒔き、芽吹いたペコロスの苗。定植と呼ばれる作業が行われていました。</p>
<p>○定植を行う近藤さん</p>	<p>21:22</p>	<p>N これは、育った苗を抜き、別の畑に一本一本およそ5cmの等間隔に植えていく作業。</p>
<p>○作業する近藤さん</p>	<p>21:38</p>	<p>N 一人黙々と作業を進める近藤さん。どうして農業の世界に飛び込んだのでしょうか？</p>

○近藤さんインタビュー	21:49	<p>新聞記者でした。経済新聞の記者でした。新聞記者をやっていた頃に、ペコロスのことを取材して、これが知多市の特産品だということを知ったんですけど、特産品の割には自分の子供も含めて、あまり知られてないというのがあったのと、その生産の実態を見るとすごく高齢化が進んで、特産品で歴史のある作物なのにこのままではだんだん生産者がいなくなっちゃうんじゃないかと思って、ちょっと自分でやってみて、やった中からこういうものであるというのを、内部の人間として外に発信していくと生産したという仲間が増えるんじゃないかな？ と 思 っ て 」</p>
○作業する吉川さん グ	22:37	<p>N　そして、そんな農業初挑戦の近藤さんに力を貸したのが、こちらの吉川昭男さん。</p>
○作業する吉川さん	22:47	<p>N　ここ知多で〇〇年、ペコロスを作り続けるベテラン農家です。</p>
	22:54	<p>まあ、一口に言えば熱心な人だな。うんやる気十分。一人一人顔が違うように全部やり方が違うわけ。だから一口にこうやれって言ってもそんな風になるわけではないし、あとは天候、畑、土地、によって左右されます。だから一口に言って良いとか悪いとか、こういう風にやって欲しいとか言ってもコンピュータで弾いて数字</p>

<p>○吉川さんを訪ねる近藤さん</p>	<p>23:29</p>	<p>N 就農から3年、今でも、近藤さんは何かあると吉川さんの元を尋ねて、アドバイスをもらっているのだそう。</p>
<p>○話し合う近藤さんと吉川さん</p>	<p>23:41</p>	<p>なんか今年根っこがわさわさくって生えてる気がするんだけど、そんなことない」 地面が湿ってる時は、根っこはたくさんつく」 「へえ、そうなんだ」</p>
<p>○畑で話す二人2ショット</p>	<p>23:55</p>	<p>N そんな吉川さんも、近藤さんのような新しい人々は大切だと言います。</p>
<p>○吉川さんインタビュー</p>	<p>24:02</p>	<p>54年かな、ペコロス組合が正式に発足した時に、130名近くあって、それから30何年現在、15、6名かな。3年前丁度由佳さんがきた時が一番少なくて12名だった。まあとにかくどんどん増やして、みんなを仲間に入れてやってもらえれば悪いことはない、それは良いことだと思いますけどね。」</p>
<p>○畑の空撮</p>	<p>24:35</p>	<p>N そして、年をまたいだ春のある日。</p>
<p>○収穫作業が行われている畑</p>	<p>24:40</p>	<p>N 近藤さんの畑では、ペコロスの収穫作業が行われていました。</p>

○畑に腰を下ろし収穫する近藤さん	24:49	N ペロスは、女性向きの作物だという近藤さん。 畑に腰を下ろし、一本一本丁寧に手で収穫していきます。
○収穫風景	25:03	N 大型機械を使わない、丁寧なその作業は、確かに女性向きの作物と言えるかもしれません。
○畑のペロス	25:14	N 今年も多くのペロスが収穫されました。
○近藤さんインタビュー	25:19	習と違って今農業も機械化されているところが多いので、昔は男の人じゃないと重労働だからできないって言われてたことも、もう安安と女の人でもできるようになってるし、女の人の感覚のきめ細かさとか、仕事の丁寧さとか、そういうものがいい野菜を作るには必要だなというところもあるんで、これからどんどん女の人が独自に就農して自分が経営者になって、農場をやっていくっていうのも、仕事の選択として本当にありだと思います」
○作業する近藤からパン作業する南条さん	25:53	N そんな近藤さんの元にも、今年から就農したいという女性が研修として作業していました。
○作業する南条さん	26:07	N 今まで専業主婦として子育てをしていた南条さん。 夢だった生き物に接する仕事の一つとして農業を選択したのだそう。

○南条さんインタビュー	26:18	<p>今年から、4月から。。。とても女性向きの細かい作業が多くて、もの自体もキャベツとか大きい方の玉ねぎとは違い、重さもないし作業はしやすいと思いました。ペコロスはこの土地が一番適してるらしいので、「ここに借りてやろうと思います。今はとりあえず近藤さんと同じように作れるようになりたい。」</p>
○近藤さんインタビュー	26:52	<p>まず生産者が私たちみたいな子育て世代のお母さんたちが生産者として入ってきてくれるというのが私としてはまず理想ですし、お年を召されてもうそろそろ引退したいという方もいらっしゃるんですけど、まあこれ私の夢のような構想ですけどね、そういう方たちに技術指導として組合に残ってもらう。で、私たち動ける若者たちは、実際の労働者、生産者、生産活動をするものとしていて。で技術が必要な部分、アドバイスしてもらう部分を、そういうもう一線引こうかな？という方にも残ってもらって、アドバイスしてもらい、指導してもらい、それで新しく来た人たちを育てる一助をしてもらう。というのが将来的には夢ですよね」</p>
○収穫作業をする3人 ○収穫の様子	27:51	<p>N と今後の夢を語ってくれた近藤さん。 様々な世代の想いが重なり合って行く農業。 そんな未来は、遠からずやって来る</p>